

見本

……イメージを学びの翼に……



保育者論

——
子どものかたわらに

【シリーズ知のゆりかご】

小川圭子 編



はじめに

本書は、保育現場を経験した者が数多く執筆しています。つまり、「保育者の卵」である皆さんの先輩です。編者である私も幼稚園で20年、子どもたちとともに歩んできました。「えー、幼稚園の先生からどうして、大学の先生に…」と疑問をもつ人もいます。私を研究者へ導いてくれたのは、知的に障害のある雷太くん（仮名）との出会いがきっかけです。

雷太くんは一日に何回もパンツに大便をもらし、私を悩ませていました。雷太くんが小学校に就学するまでに自分で大便の処理ができるようになるにはどうしたらいいのか、試行錯誤の日々でした。保護者と毎日記録を取り、保育者と保護者が一体となって取り組むことで、先の見えない事象に少しずつ見通しがもてるようになってきました。雷太くんは小学校入学前の3月には自分で処理ができるようになり、卒園しました。

歳月が流れ、雷太くと10年ぶりに再会したある日のことです。雷太くんは、障害のある子どもたちが主催のコンサートに来ていました。高校生になり背も高く凛々しくなった雷太くんに、私は「雷太くん、こんにちは」と声をかけました。びっくりしたのか、雷太くんは逃げるように走って行ってしまいました。「幼稚園時代のことだし、10年経っているし、忘れているのだわ」と一抹の寂しさが込みあがりました。しかし、走り去ったと思っていた雷太くんは、会場の一番後ろから私に向かって大きな声で叫んだのです。——「ぼくのせんせい」。

10年の歳月が経った今も、私は雷太くんの先生であることを教えられました。雷太くんは自立しましたが、雷太くんとのかかわりを通して保育者としての喜びはもちろん、保育の達成感から私のなかに新しい世界が開けたこと、そして、夢中になれると人は伸びることを、保育実践から得ることができました。

保育者は、子どもとのかかわり、保護者とのかかわり、地域とのかかわりなどの仕事があります。本書は多岐に渡り、身につけておく知識や技術を網羅しています。さらに、保育者として「カステラの心」4か条を大切にしています。「力」は活発に、「ス」は素直に、「テ」はてきぱきと、「ラ」は楽観的に、つまり、人としてのあり方です。

保育の醍醐味を味わっていただくために、本書は工夫を凝らしました。

- ① 討論・発表ができる、アクティブラーニングの課題を設定しました。
 - ② 用語解説、コラム、図表を多用し、初学者にわかりやすい内容を構成しました。
 - ③ 保育者の資質向上を図るため、キャリア形成の内容を豊富に取り上げました。
- 最後に、出版に際して、関係者の皆さまのご尽力に、厚く御礼申し上げます。

2017年6月

編著者 小川 圭子

本書の構成の特徴

保育者の具体的な仕事をイメージしながら、その内容について解説していきます。



目次

はじめに

本書の使い方

第1章 保育の日常と保育者になるための学び…………… 14

第1節 保育者の一日 16

第2節 保育者の制度的位置づけ——免許と資格 20

1. 保育所と幼稚園、幼保連携型認定こども園の比較 20
2. 保育者になるために 22

第2章 保育職とは…………… 26

第1節 魅力的な保育者 28

1. 魅力的な保育者とは 28
2. 保護者と保育者 31
3. 保育者同士のかかわり 32
4. 保育者としての資質 32

第2節 子どもの発達に寄り添う 33

1. 現代の子どもを取り巻く環境と保育者の役割 33
2. 乳児の発達と保育者 34
3. 幼児の発達と保育者 36

第3節 保育者としての倫理 37

1. 保育者の言動の影響力 37
2. 保育者の倫理観 39
3. 全国保育士会倫理綱領 40

第3章 現在の保育にまつわる問題…………… 44

第1節 少子化・待機児童問題 46

1. 少子化の進行 46
2. 待機児童問題 47

第2節 児童虐待 48

1. 児童虐待の種類 48
2. 保育所保育指針から読み解く 49

第3節 配慮を要する子どもへの理解と対応 50

1. 特別な支援を必要とする子どもの現状 50
2. 「子ども・子育て支援新制度」にみる特別な支援を必要とする子ども 51

第4節 貧困と多文化共生 52

1. 子どもの貧困 52
2. 多文化共生保育 53

第4章 保育者の役割を考える…………… 56

第1節 保育士・幼稚園教諭・保育教諭の仕事 58

1. 保育士の仕事 58
2. 幼稚園教諭の仕事 60
3. 保育教諭の仕事 62

第2節 保育者の職務内容 64

1. 乳幼児の保育 64
2. 諸表簿の作成および管理 65
3. 環境整備と危機管理 65
4. 延長保育やバスの乗車担当 65
5. 保護者の支援 66
6. 地域における子育て支援 66

第3節 初任者・中堅者・管理職の役割 66

1. 初任者の役割 67
2. 中堅者の役割 68
3. 管理職の役割 69

第5章 専門家として子どもとかかわる…………… 72

第1節 子どもの遊びと育ち 74

1. 子どもにとっての遊びとは 74
2. 子どもの遊びを中心とした総合的な保育 75
3. 遊びと食育 77

第2節 保育者の専門性とは 78

1. 養護と教育の一体性 78
2. 保育者に求められる資質と能力 79

第3節 保育者の援助技術の向上と言葉がけ 84

1. 発達援助力と生活援助力 84

2. 保育環境構成力と遊びの展開力 85
3. 人間関係構築力と相談援助力 86

第4節 保育の安全管理と危機管理 88

1. 子どもの事故 88
2. 災害への備え 90
3. 園内の職員の連携 90

第6章 保育のプロセスと質の向上…………… 92

第1節 保育の計画 94

1. なぜ保育には計画が必要なのか 94
2. 育てたい子ども像を共有する 96

第2節 保育における省察——PDCA サイクル 99

1. 幼児の主体性と保育者の意図性 99
2. 保育を創造するプロセス 104

第3節 記録と評価 106

1. いろいろな記録 106
2. 就学前教育施設における評価 108

第7章 行事の意義と役割…………… 112

第1節 なぜ「行事」は必要か 114

1. 1年間のさまざまな行事について 114
2. 行事がもつ役割について 115

第2節 保育者にとっての行事 116

1. 子どもと行事を通して向き合う 116
2. 保護者に行事を通して伝える 118
3. 園全体で協力して行事をすすめる 120

第3節 子どもが育ちあう行事 123

第8章 保護者や家庭との連携…………… 126

第1節 子どものより良い育ちのために 128

1. 現在の子育ての困難さと支援 128
2. 子育て支援の協働 128

第2節 子育て支援のために求められる姿勢 130

1. 受容——受けとめることと受け入れることの違い 131
2. 傾聴——保護者の話を「聞く」だけでよい？ 133
3. 共感——見守りと監視の違い 133

第3節 園だより・クラスだより・連絡帳のあり方 135

1. 園だより・クラスだより・連絡帳の目的 135
2. それぞれの技術と留意点 135

第9章 関連機関や地域との連携…………… 140

第1節 幼稚園・保育所と小学校の連携 142

1. 幼・保・小の連携の必要性 142
2. 幼児期の望ましい子どもの育ち 142
3. 連携の具体的な方法について 143

第2節 専門機関との連携——医療・保健・療育機関 144

1. 専門機関との連携を考える 144
2. 保育における主な連携先について 146

第3節 地域における子育て支援 148

1. 保育の場を利用した子育て支援 149
2. 家庭的保育者などの地域型保育事業との連携 150

第10章 「失敗」から学んでいく…………… 152

第1節 ベテランと新人の違い——事例から考える 154

1. 子どもと信頼関係を築くには 154
2. 子どもの育ちを導く援助 156

第2節 職員間の連携、保育カンファレンス、同僚性 158

1. 職員間の連携の大切さ 158
2. 保育カンファレンス 159
3. 同僚性は保育者の専門性の向上につながる 159

第3節 研修・研究など園内外での学び 160

1. 失敗に向き合う心と保育者の主体的な学び 160
2. 園内外における研修の大切さ 162
3. さまざまな研修と保育者のキャリア 163

第4節 苦情解決方法——より良い組織運営に向けて 164

1. 苦情解決と協働 164
2. 苦情解決の体制・対応 165

3. ともに悩むことのできる職員集団 166

第11章 保育者のライフデザインを考える…………… 168

第1節 保育者の就業状況 170

1. 幼稚園と保育所で働く保育者数 170
2. 男性保育者の割合の推移 171
3. 保育者の平均年齢と勤続年数及び所定内給与額 171
4. 保育者の離職理由について 172

第2節 保育者としてのライフデザイン 174

1. 保育者のライフコースとキャリア 174
2. 結婚・出産について 175

第3節 レジリエンスを培う 176

1. レジリエンスについて 176
2. 保育者にとってのやりがい 177

第12章 これからの保育のために…………… 180

第1節 先達の保育の実践から学ぶ——名言のあれこれ 182

1. 世界の保育者から学ぶ 182
2. 日本の保育者から学ぶ 183

第2節 より良い保育者像を目指して 184

1. 理想の保育者像の基本 185
2. 育ての心 187

第1章

見本

保育の日常と保育者になるための学び



エクササイズ 自由にイメージしてみてください

これからの自分の将来の姿をイメージし、それを「すごろく」にしてみましょう。

この章のまとめ!



学びのロードマップ

見本

●第1節

保育者は、日々どのような仕事を行っているのでしょうか。保育者のある1日の仕事の流れを見てみましょう。

●第2節

保育者には、おもに保育所で働く「保育士」、幼稚園で働く「幼稚園教諭」、認定こども園で働く「保育教諭」があります。それぞれ免許や資格が異なります。

この章のなるほど キーワード

■**キャリアデザイン**…自分の職業人生をどのように築くかというプラン設計のこと。



第1節 保育者の1日

保育者として、実際に、保育現場で働いたときの1日の流れを確認してみましょう。毎日、時間通りの保育ができるわけではありませんが、子どもたちが規則正しい生活を身につけ、安心して落ち着いた園生活を送るためには安定した日課が必要です。

表1-1 保育の1日の流れ

時間	生活のリズム	子どもの活動	保育者の援助
7:00	保育前の業務(1)		掃除・保育室の準備
8:00	登園(2)	挨拶、身辺整理	挨拶、身辺整理の援助(3)
9:00	朝の会(4)	絵本の読み聞かせなどを聴く	絵本の読み聞かせなど
9:30	午前の活動	設定された活動、自由遊び、手洗い・うがい	設定保育(5)、自由保育(6)、手洗い・うがいの援助(7)
12:00	昼食(8)	食事、歯磨き	食事の準備、歯磨きの援助(9)
13:00	午睡(10)	午睡（お昼寝）	会議(11)、連絡帳の記入(12)
15:00	起床	排泄、衣服の着脱	排泄・衣服の着脱の援助(13)
15:30	おやつ(14)	おやつ、歯磨き	おやつ準備
16:00	午後の活動	設定された活動、自由遊び	設定保育、自由保育
17:00	降園(15)	降園準備、降園	保護者への連絡・報告
18:00	保育後の業務(16)		事務作業、翌日の保育準備

注1) 幼稚園・保育所・認定こども園によって異なります。上記は保育所の1日の流れで、幼稚園は午睡がなく、子どもたちは通常1日4時間の保育で降園します。認定こども園は、幼稚園と保育所の保育時間が施設のなかで一体となっています。

注2) 参考としての大まかな表になりますので、園の保育方針によっても、時期によっても多少の違いがあります。

毎朝、園庭の環境を整えています。子どもたちが園庭に出る前に、安全を確認しています。

(1) 保育前の業務

保育者は、朝、出勤したら、まず子どもを受け入れる保育室の環境を整えます。気持ちよく登園できるように保育室を掃除するとともに、空気の入れ替えや、季節によっては温度調整をしたり、天候によっては、レインコート置きや傘たてを準備したり、さまざまな配慮をしていきます。また、その日の計画をイメージしながら、準備を万端にしたうえで、前日の引き継ぎや振り返りを今日の保育に活かせるようにします。



登園してくる子どもに笑顔で挨拶をして、しっかりと診ます。子どもの様子は毎日違います。

(2) 登園

登園時、子どもと保護者との1日は笑顔の挨拶で始まります。保育者が元気に迎え入れてくれることは、とても気持ちのよいものです。この時、子どもの表情や体調を、目と目を合わせてしっかりと診て、声をかけて登園時の状態を確認することが重要です。保護者からも家での様子をしっかりと聞き取ります。



(3) 身辺整理の援助

子どもは、登園すると自分の荷物をロッカーに入れ、手拭きタオルやコップなど私物を定位置にセットします。乳児は、保護者が行うことが多いですが、徐々に自分のことは自分でできるようになります。保育者は、声かけなどをして意欲が高まるように、手伝いすぎず、「〇〇ちゃん、朝の準備（身辺整理）したら一緒に積み木しようか」などと次に楽しい活動が待っていることを期待し、今何をすべきか気づけるような声かけをすることで、指示語を使わず主体的に行動できるように援助していきます。

(4) 朝の会

登園時にも一人一人の子どもの様子を見ますが、保育者は朝の会でクラス全員を集めて心身ともに元気かどうかを確認します。朝の会などの集まりは、絵本を読んだり歌をうたったり、手遊びをしたり、楽しい雰囲気での生活を始めることが大切です。また、この時にクラス全員に季節の変化や今日の予定などを伝えます。幼児になると、子どもたちがクラス全員の前で話したり発表したりする機会を作り、自分の思いや意見を頭のなかで構成して発表することに慣れるようにしていきます。

(5) 設定保育

保育者は明確な「ねらい」をもって保育実践を行います。自然物を使って季節を感じる製作物を作ったり、クラス全員でごっこ遊びをしたり、楽器を使った音遊びをしたり、運動遊びをしたりとさまざまな活動があります。そのなかで子どもたちの成長を促し、将来への可能性の芽を育てていくのです。この時保育者は、5領域を考慮したうえで、子どもの発達に応じた活動を設定し保育を計画していきます。

(6) 自由保育

子どもにとっての生活の中心は自発的な遊びです。この遊びのなかで、さまざまな経験をすることが、学びや多岐にわたる成長につながります。保育

したがって、保育所と幼稚園の機能をあわせもった認定こども園では、幼稚園と保育所両方の専門性が必要になります。幼稚園と保育所を比べると、たとえば、幼稚園では園バスを利用する園が多く保育者が添乗することがあり、保育所では午睡や授乳などさまざまな生活の場面へのかかわりがあるなど、仕事内容に違いがあります。保育教諭を目指す学生には、そのような違いを意識しつつ、共通して大切なことを学び、資格・免許の取得を目指していくことが求められます。

レツットライ

演習課題



Q 「表1-1 保育の1日の流れ」を見て、子どもと保育者のかかわりについて、気づいたことや思ったことを箇条書きにしてみましょう。



自分の感じたことや思ったことを箇条書きで書き出してみましょう。



「ホップ」で書き出したことをもとに話し合ってみましょう。



話し合った内容を文章にまとめてみましょう。
